



# ご支援ありがとうございます

震災から5年が経過、プロジェクト始動からも5年が経とうとしています。これまで多くの方々からご寄附いただき、ボランティアにも参加していただきました。名取市の沿岸地域で農業を営んでいる方、名取市海岸林再生の会のメンバーから、全国の皆さまへの感謝の気持ちと今後の意気込みを伺いましたのでお届けします。



「名取市海岸林再生の会」  
高梨 やよい

辛い経験もしてきましたが、私たちが生きている今日は亡くなった方が生きたかった今日と思い、生きています。震災直後、遺体を探し回っていたあの時、オイスカは何の前触れもなく、海岸林の再生を訴えてきました。どうしてこんな時に・・・とその時は思っていたが、今となっては、あの時に縁あってオイスカと海岸林の再生に取り組んだことが今につながっていると感じています。先代が守ってきた海岸林を今度は私たちが守っていきます。



「名取市海岸林再生の会」  
高梨 仁

海岸林が育っている地域は、被災前はチンゲンサイなどの葉物の産地として有名で、仙台市場流通の80%を担っている”仙台の台所”だった。おらたちが育てていた葉物が市民の食を支えていた。海岸林は生活するうえで欠かせない存在だが、それだけでなく仙台市民の食を支えるうえでも欠かせない存在だ。責任をもって、海岸林の再生に取り組んでいく。



「名取市海岸林再生の会」  
大友 淑子

いつも支援してくださっている方に「どうしてこんなに被災地のことを思って、支援してくださるのですか？」と聞きたい気持ちがあります。もし自分が被災していなくて、支援する側に立った場合、自分も同じようにできるのだろうか？一度きりでなく、継続的に支援できるのだろうかと考えます。私は、支援してくださっている全てみなさんに直接お礼をいうことはできませんが、せめてもの恩返しと思い、マツをこれからも一生懸命育てます。



「名取市海岸林再生の会」  
菊池 義巳

津波が来たときは外にいて、全く津波には気づかなかった。防災無線が地震で壊れて名取地区は誰も知らなかったんじゃないかな？自分も津波で流されたけど、一緒に流れてくる瓦礫に当たらないように流れに従って泳いで奇跡的に助かった。  
自分の家は、名取事務所がある場所のすぐ近くにあって、今では居住禁止区域になっている。震災後はその場所に近づく気にもならなかったが、今では再生の会の活動に参加し、クロマツを育てるといふ喜びがある。この活動を続けていきたい。



「名取市海岸林再生の会」  
武田 昭夫

自分の家は、津波による被害はほとんどなかったが、町内では大きな被害を受けた家もあり、最初は町内の復興で忙しかった。それがひと段落し、外に目を向け始めた時に再生の会の人から誘いがあり、すぐ参加を決めた。オイスカが来てくれ、この活動を支援してくれる人がいるおかげで自分たちが海岸林の再生に携わっている。このことが本当にうれしく、みなさんに感謝している。



「名取市海岸林再生の会」  
副会長 櫻井 重夫

私が震災前に住んでいた地域は、昔から県内唯一のメロン産地、その他トマト、キュウリ、葉物を栽培、中でも小松菜、チンゲンサイは仙台市場8割を担う程の出荷量でした。私も夫婦2人で農業を営んでいました。

津波によってすべてが流され、自分にやれる事、やりたい事は何かと考えた時、やはり野菜作りしかないと、地区の仲間3組夫婦6人で立ち上がりました。しかし農地は地下水の塩分濃度が高く、復旧には相当時間がかかると知り、自分の農地を諦め避難所近くの耕作放棄地を借り、避難所から毎日整地に通いました。その意気込みを感じてくれた周りの人たちが農機具を貸してくれ、農協、行政の多くの人の手助けにより、震災の年の5月上旬播種、6月上旬に出荷する事ができました。

今ではビニールハウス38棟(約4,020㎡)と露地10,000㎡に小松菜、チンゲンサイ、ゆき菜などを作っており、売上は順調に伸びてきています。他の地元の人たちは、やっと最近ビニールハウスで野菜作りを始めたところ。そして、当初は自分の将来や生活に対する不安で海岸林に対してあまり興味を示さず、他人事のように「行政がやればいい事ではないか」などと思っていた人たちも、作物が海からの塩害や強風を受けることで、海岸林の重要性や再生に関心を示すようになりました。

オイスカとは、まだ私たちが避難所にいる時、いち早く海岸林再生の提案をしに来てくれたのが始まりです。オイスカの強い熱意と、少ないですが海岸林の重要性を感じた人たちが再生に立ち上がりました。

経済的に不安を抱えていた被災者には、松の苗作りや植栽などの作業は負担が大きく難しい面がありましたが、ボランティアではなく雇用というかたちで作業労賃を支払ってくれることになり、当時は野菜の売り上げも少なかったのが本当に助かりました。

これは全てオイスカが働きかけた行政の支援、企業や個人の方の寄附のおかげです。また何度も足を運んで作業してくれるボランティアの人たちにも本当に感謝しております。

多くの人たちに感謝しながら、このプロジェクトを達成できるように今後も頑張りたいと思っております。  
(日本記者クラブ主催の活動報告会(2016.2.10)でのコメントを一部修正)



次はTPPという世界の波が押し寄せることは間違いない。村井県知事が「創造的復興」を果たさなければ、東北地方の農業は生き残れないと言っています。名取の沿岸地域の農地はまだ復興の真っ只中ですが、100m×100m(1ha)以上の大区画化や法人化・グループ化、機械化、六次産業・付加価値化を目指す動きも活発です。田んぼ1枚で3.4haもの大きなものや、1法人で150haの農地を扱う大規模化も見られます。震災前は海岸林の背後に1,000棟ほどあったビニールハウス団地は、現在300棟以上が再建され、出荷が再開されました。また、規模は大きくないですがコツコツ農作業をする人の姿も、見られるようになりました。  
私のところは売上高も出荷量も震災前の半分に届きません。波の音が聞こえて怖くなります。海岸林が必要なのは間違いない。うちの事務員の女性も、海岸林再生に寄附しています。植樹祭には行きたいです。  
～名取市の農業法人の方からのコメント～